

## 第3章 風景づくりの理念・方向性

- 1．風景づくりの理念.....3-2
- 2．取り組みの基本姿勢.....3-2
- 3．風景づくりの方向性.....3-3
  - (1) 風景づくりの方向性
  - (2) 風景特性、街づくりの動きに対する考え方

世田谷区の風景特性を踏まえて魅力的な風景づくりを推進するため、世田谷区における風景づくりの基本的な考え方を、「風景づくりの理念」「取り組みの基本姿勢」「風景づくりの方向性」として示します。「風景づくりの方向性」では、区全体の風景づくりの方向性を示し、これを踏まえて地域や街づくりの動向などから、更に地域ごとの風景づくりの考え方を示します。

## 1. 風景づくりの理念

---

世田谷の風景は、起伏豊かな地形のもと、みどりやみずに恵まれ、それぞれの時代の中で生活する人々に育まれて現在の姿を築いてきました。まさに風景は、自然や地形の中での人々の営みの反映ともいえるでしょう。

こうした世田谷の風景をこれからも、守り、育て、つくっていくための視点があります。

第一は、あらためて地域の個性を再認識し、それらを活かすということです。58 平方キロメートルの中に約 87 万人が暮らす大都市である世田谷には、みどり豊かな住宅地、駅前の活発な商店街、幹線道路沿いの中高層建築物など、様々な暮らしの風景があります。とりわけ国分寺崖線をはじめとする地形の起伏、河川や水辺などの自然的要素、古道や社寺などの歴史的な空間や建造物など、長い年月を積み重ねてきた自然や歴史には、地域を持続させる手がかりがあるはずです。

第二に、区に関わる多くの人々が風景づくりに参加することです。風景は公共の財産です。区民や地域の事業者をはじめ、行政や企業さらには通勤・通学者や来街者も含めたあらゆる人が、世田谷の魅力を知り、先人たちが築き上げてきた歴史・風土を尊重し、目指すべき風景のあり方を共に考え、それぞれの立場や場面で風景をより良くする活動に参加していくことが、世田谷の風景の魅力を高めることにつながります。

このような考えのもと、世田谷区が目指す風景づくりの理念を示します。

< 風景づくりの理念 >

**地域の個性を活かし 協働でまちの魅力を高める 世田谷の風景づくり**

## 2. 取り組みの基本姿勢

---

区民・事業者・区が連携し、風景づくりの理念を実現していくためには、それぞれが風景づくりに対する共通認識をもって取り組むことが必要です。

「取り組みの基本姿勢」では、私たちが風景づくりに取り組むにあたって共有しておくべき取り組み姿勢を示します。

< 取り組みの基本姿勢 >

**区民・事業者・区の協働で風景づくりに取り組む**

**次世代に向けて 愛着と誇りを持てるような風景づくりを進める**

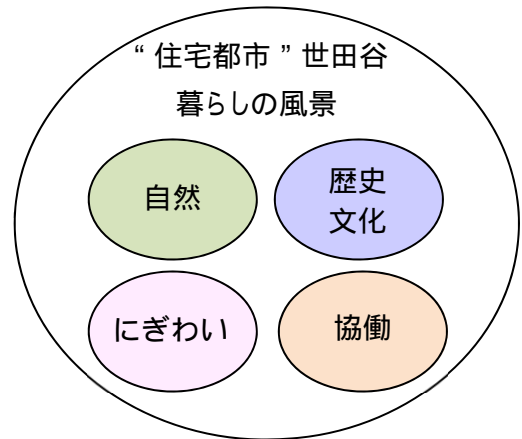
**自然や歴史的・文化的遺産を継承し 新たな都市の風景を創造していく**

### 3. 風景づくりの方向性

風景づくりの理念を実現していくためには、みどりやみずの保全・育成をはじめ、歴史的資産の維持・保全、新たな街づくりや建設行為、区民による風景づくり活動など、風景がそこに生活する人々により創造されていることを踏まえた上で、風景特性を活かしながら、それぞれの取り組みの中で着実に魅力を高めていくことが必要です。

「風景づくりの方向性」では、「住宅都市」世田谷として、“暮らしの風景”を大切にしていけることを基本的な考え方として捉えつつ、「自然」「歴史・文化」「にぎわい」「協働」の視点から、風景づくりの理念を実現していくための方向性を示します。

この方向性を基に、主な風景資源や特性、街づくりの動きに対する風景づくりの考え方を、「世田谷」「北沢」「玉川」「砧」「烏山」の地域ごとに示します。



#### (1) 風景づくりの方向性

#### 自然 地形を尊重し、みどりやみずの風景を守り育てる

##### 地形

武蔵野台地固有の地形や起伏の高低差がもたらす眺望等の要素を活かし、世田谷の風景の魅力を高める

- ・武蔵野台地を幾筋かの河川が浸食し形づくられた起伏の豊かな地形は、世田谷の風景の基盤となるものです。一方、大がかりな地形の変更は大きな災害をもたらす要因にもなります。地域の個性を表す大切な要素として地形を尊重し、これを活かした風景づくりを進めます。
- ・地形の起伏によって作りだされる斜面地や坂道、高台からの眺望は、大切にしたい風景特性であり、とりわけ国分寺崖線の崖上から多摩川や富士山などの見晴らしは、世田谷区ならではの風景です。高低差がもたらす眺望を大切にしたい風景づくりを進めます。

##### みどり みず

多様なみどりの保全・育成と共にみどりの風景の質の向上を図る  
河川や湧水などの様々なみず資源の保全と共に、潤いある風景づくりを進める

- ・国分寺崖線の斜面地に連続するまとまったみどりの風景は、崖線らしさの象徴です。崖線の樹林がつくるみどりの連続性、スカイラインの維持・創出に努めます。
- ・武蔵野台地の雑木林の面影を残す樹林地や社寺のみどり、大規模な公園や緑地等のまとまったみどりは、みどり豊かな世田谷の風景を形成していく核となるものです。まとまったみどりの保全・育成と共に、まとまったみどりを起点としてみどりの風景の広がりや質の向上を図ります。

- ・街なかにある緑道、並木や高木、敷地内を彩る花木は、地域のシンボルとなると共に、街の印象を向上させます。地域の特徴的なみどり資源は、風景づくりに活かしていきます。
- ・豊かな流れを保つ多摩川や野川などの河川や湧水などの様々なみず資源があることも、住宅都市世田谷の風景の魅力です。みず環境の保全と共に、みどりとの調和を図りながら、自然豊かな潤いのある風景づくりを進めます。

## 歴史・文化 地域の歴史や文化の特性を引き出し、風景づくりに活かす

### 地域の 歴史・文化

地域の歴史や文化を感じ取れる要素を継承し、風景づくりに活かすことで、地域の個性や魅力を高める

- ・区内には古代の古墳から古道や街道、近代の駒沢給水塔まで、それぞれの時代の多様な遺産や遺跡、建造物などが残されています。これらの歴史的資産は地域の歴史や文化を伝える貴重な要素です。歴史的資産を継承しながら、地域の風景の個性や魅力を引き出すよう、風景づくりに活かします。
- ・ボロ市や多摩川花火大会など、地域で行われている行事や催しは、地域の歴史や文化を体感できたり、季節の風物詩として風景を演出する貴重な要素です。地域の魅力を高める行事等を、その行事などが行われる場所や周辺の風景づくりに活かしていきます。
- ・近年整備された建築物や公共施設などにおいても、優れたデザインで地域の風景を先導しているものや地域のランドマークとなっているものもあり、新たな風景を築く核となります。これらの周辺では、対象となる建造物などを活かしながら周辺の風景の質を高めていきます。また、建設行為等が行われる際には、地域の新たな風景づくりに資する整備となるよう誘導を図ります。

### 住宅地

みどりとみずの豊かな住宅都市として、住宅地それぞれの成り立ちや特徴を認識し、愛着と誇りを持てる風景づくりを進める

- ・江戸の近郊農村として発展し、明治維新以降、その時々での社会的な動向や時代のニーズと共に様々な住宅が建設され、その積み重ねにより現在の住宅都市としての世田谷の風景を形づくってきました。それぞれの住宅地の成り立ちや特徴を認識し、区民が愛着と誇りをもって暮らす環境を育むよう、住宅都市としての風景づくりの質を高めていきます。
- ・大規模団地やマンションなどの建て替えは、風景が大きく変わることから、既存の高木などの風景の記憶も活かしながら、周辺の街並みと調和を図り、また、街づくりと連携しながら次世代に向けて先導的な風景づくりを進めていきます。

## 農

### 世田谷の原風景である農の風景を尊重した風景づくりを進める

- ・江戸の近郊農村として発展した世田谷には、都市化が進んだ今も農地が残り、都市農業の保全が図られています。世田谷の原風景である農の風景を尊重し、周辺ではそれを活かした風景づくりを進めます。

## にぎわい 活力や交流が生まれ、親しみのあるにぎわいの風景をつくる

### にぎわい

#### 街の拠点として地域の個性を引き出しながら魅力的な空間を育み、にぎわいや活気を誘導する

- ・都市整備方針で広域生活・文化拠点として位置づけられている三軒茶屋、下北沢、二子玉川では、それぞれの拠点の個性をより一層活かし、多くの来街者が魅力的に感じられる活気とにぎわいのある風景づくりを進めます。
- ・商店街では、街づくりや商業振興と連携をはかりながら、地域での取り組みや地域資源などを活かし、地域の魅力や個性を引き出すようなにぎわいの風景づくりを進めます。

### みち

#### 幹線道路などの沿道では、街の骨格となる風景をつくる 緑道など地域の特徴的なみちでは、特性を活かした風景づくりを進める

- ・幹線道路や地区幹線道路などは、多くの人々が日々利用し、目にする風景であり、街の骨格です。道路整備の際は、街路樹等による潤いのある風景の形成の推進や無電柱化を検討します。また、沿道の建設行為等に対しては、このことを踏まえた風景づくりを誘導します。
- ・緑道や用賀プロムナードなどの歩行者や地域の憩いの空間としても寄与する“みち”や“みち沿い”では、潤いとやすらぎの感じられる風景づくりを誘導するとともに、周辺のみどりや風景資源との連続性を図ることで、更に歩いて楽しいみちづくりを進めます。

### 鉄道

#### 整備が進み変化する鉄道沿線では、街づくりと連携した風景づくりを推進する 世田谷線沿線では、親しみのある沿線の風景づくりを進める

- ・連続立体交差事業が進められている小田急線や京王線では、駅前広場やその周辺の整備において、街づくりと連携し、新たな魅力的な風景を創出するよう進めます。
- ・世田谷線の風景は、生活に溶け込む特徴的な風景として多くの人に親しまれています。世田谷線の沿線では、車窓からの眺めに配慮し親しみのある沿線の風景づくりを進めます。

## 協働 区民が主体となり協働で風景づくりを推進する

### 協働

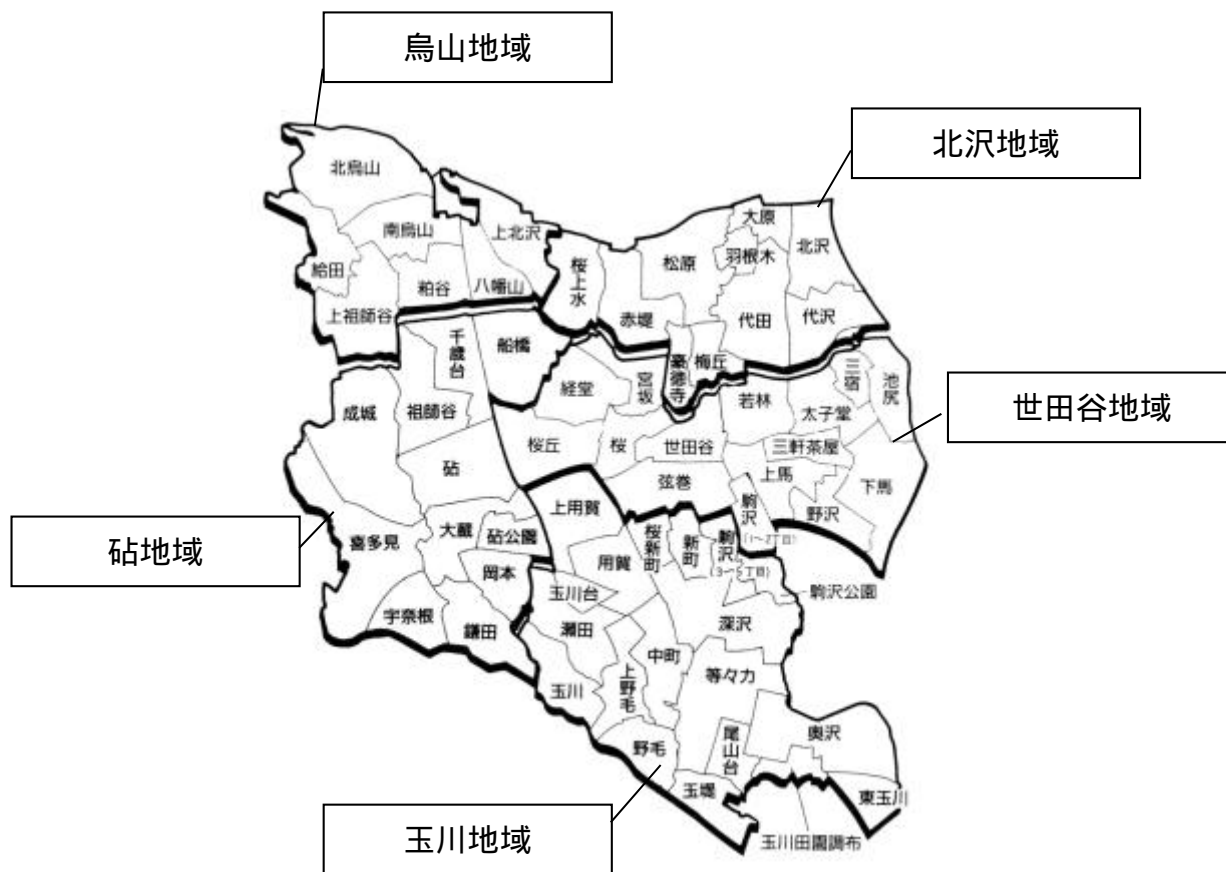
幅広く、より多くの人々の参画による協働の風景づくりを進めながら、風景づくりに対する区民の主体性を高める

- ・区では、様々な公共施設整備や普及啓発事業を行う中で、協働による風景づくりを進めてきました。これまでの成果を踏まえつつ、幅広い切り口を設けてより多くの人々の参画を導きながら、協働による風景づくりを深めていくと共に、風景づくりに対する区民の主体性を高め、自発的な実践を促していきます。
- ・地域風景資産や界わい宣言、市民緑地など、風景づくり活動が行われている資産やその周辺では、地域や区民などとともに、地域の魅力を高める風景づくりを育みます。

(2) 風景特性、街づくりの動きに対する考え方

(1) で示した風景づくりの方向性を踏まえ、主な風景資源や特性、街づくりの動きに対する風景づくりの考え方を、「世田谷」「北沢」「玉川」「砧」「烏山」の地域ごとに示します。

地域区分図



## 世田谷地域



### < 自然 >

～ 地形、みどり・みず～

#### 地形・眺望への配慮

北沢川緑道沿いの斜面地や桜丘の台地などでは、眺望が開けた場所があります。豊かな地形を活かしながら、その眺めを多くの人が共有できるよう工夫します。

#### まとまったみどりとの連続性の創出

世田谷公園や桜丘すみれば自然庭園、世田谷観音等の社寺などのまとまったみどりは、地域の風景を特徴づける大切な要素です。まとまったみどりを起点に、より多くの人々がみどりを感じられるよう、みどりの連続性に配慮した風景づくりを進めます。



世田谷公園

#### 緑道から広がる散歩道

烏山川緑道や蛇崩川緑道などの緑道は地域住民などに憩いと潤いを提供する散歩道です。隣接敷地や緑道沿道で建設行為等を行う際には、緑道の植生などの特性を踏まえながら積極的にみどりを配することで、みどりの連続性を深めます。また、緑道周辺の公園などの風景資源と連携を図りながら、更に散歩に適した空間づくりを進めます。

### < 歴史・文化 >

～ 地域の歴史・文化、住宅地、農～

#### 歴史的・文化的資産を活かす

世田谷地域には、430年以上の伝統を持つボロ市や、近代化遺産である駒沢給水所、松陰神社、世田谷城主・吉良氏に関する痕跡、大山道や瀧坂道といった古道など、歴史的な資産が点在しています。それらの歴史的資産の周囲においては、歴史的資産に対して建築物の配置や、植栽により空間のつながりを持たせたり、街づくりに資産を活かすなどの工夫を行います。



代官屋敷とボロ市通り

#### 大規模団地の建て替えに伴う街づくりとの連携

都営下馬2丁目アパートの建て替えを契機とした周辺まちづくりでは、みどり豊かでゆとりある良好な住環境の形成及びにぎわいのある商業環境の形成が図られるよう、街づくりと連携して風景づくりを進めます。



### 木造住宅密集地域での防災街づくりとの連携

太子堂や三宿には、関東大震災をきっかけに、東京の中心部からの移住により木造住宅密集地域となっているところがあります。防災性の向上のため、建物の不燃化・耐震化を進めるとともに、道路や公園等の整備を進める中で、防災街づくりと連携した風景づくりを進めます。



太子堂の住宅地

### 農の風景との共存

桜丘地区は農地保全重点地区に指定され、農地の保全・育成が図られています。農地の周辺で建設行為等を行う際には、土やみどりなど田園風景に調和するデザインや素材を採用したり、敷地内緑化や敷地境界を生垣にするなどの工夫をし、農地と建築物などが共存する風景づくりを進めます。

### < にぎわい >

～にぎわい、みち、鉄道～

### 三軒茶屋（広域生活・文化拠点）の風景づくり

三軒茶屋は、その発展の歴史を活かし、庶民的雰囲気のにぎわいと活気に満ちた風景づくりを進めます。また、商業・業務・文化などの多様な機能を備えた拠点とするため、再開発事業では魅力的な空間づくりを誘導します。



賑わいのある  
三軒茶屋の商店街

### 商店街から広がる風景づくり

駅周辺などに広がる商店街では、商店街の取り組みや地域資源を風景づくりに活かすとともに、街づくりと連携した取り組みを進めます。

### 大通りの心地よい空間づくり

玉川通り、世田谷通り、環状7号線など大通り沿道の建設行為等は、街並みのスカイラインや形態・意匠・色彩に配慮するとともに、可能な限り緑化を図るなど、歩行者にも心地よい空間を創出します。

### 親しみのある世田谷線沿線の風景づくり

住宅地の中を色とりどりの車両が走る世田谷線は、沿線に植えられた季節毎の草木や花々と共に人々の目を楽しませてくれる、世田谷の特徴的な風景です。車窓や沿線からの眺めに配慮し、沿線の魅力を高める風景づくりを進めます。

### < 協働 >

### 地域風景資産や界わい宣言を活かした風景づくり

地域風景資産や界わい宣言、市民緑地など、風景づくり活動が行われている資産やその周辺では、地域や区民などとともに、地域の魅力を高める風景づくりを育みます。



清掃・花づくり

## 北沢地域



### < 自然 >

～地形、みどり・みず～

#### 地形・眺望への配慮

北沢川などの河川やその支流に沿って斜面地が連続し、松原、羽根木、代田、大原などの台地からは、富士山を望むこともできるような眺望が開けた場所もあります。豊かな地形を活かしながら、その眺めを多くの人が共有できるよう工夫します。

#### まとまったみどりと連続性の創出

羽根木公園、森蔵寺などの社寺、鉄道沿線の土手などのまとまったみどりは、地域の風景を特徴づける大切な要素です。まとまったみどりを起点に、より多くの人みどりを感じられるよう、みどりの連続性に配慮した風景づくりを進めます。

#### 緑道から広がる散歩道

再生水を流したせせらぎが整備されている北沢川緑道をはじめ、緑道は地域住民などに憩いと潤いを提供する散歩道です。隣接敷地や緑道沿道で建設行為等を行う際には、緑道の植生などの特性を踏まえながら積極的にみどりを配することで、みどりの連続性を高めます。また、緑道周辺の公園などの風景資源と連携を図りながら、更に散歩に適した空間づくりを進めます。



北沢川緑道

#### 和田堀給水所

みどりの拠点である和田堀給水所の整備に合わせ、新たな地域資源の形成を図ります。

### < 歴史・文化 >

～地域の歴史・文化、住宅地、農～

#### 歴史的・文化的資産を活かす

豪徳寺や玉川上水、瀧坂道、鎌倉道、甲州街道といった古道など、歴史的・文化的資産の周辺においては、資産に対して建築物の形態や配置、植栽により空間のつながりを持たせたり、街づくりに資産を活かすなどの工夫を行います。

#### 保健福祉の街づくりとの連携

「やさしいまちづくり」のモデル地区として福祉的環境整備を進めてきた梅ヶ丘駅周辺地区を、梅ヶ丘病院跡地整備にあわせ、改めて「保健福祉の街づくり重点ゾーン」としてユニバーサルデザインによる街づくりを重点的に進めることから、公共施設や大規模な建築物の建設及び道路などの改修の際には、街づくりと連携し、風景づくりとしても魅力を高めていきます。



梅ヶ丘駅周辺やさしいまちづくり

#### 木造住宅密集地域での防災街づくりとの連携

北沢、大原を中心に、戦後の人口急増の中、木造賃貸住宅が増加し、木造住宅密集地域となっているところがあります。防災性の向上のため、建物の不燃化・耐震化を進めるとともに、道路や公園などの整備を進める中で、防災街づくりと連携した風景づくりを進めます。

### 特徴的な住宅地の風景を伝える

代沢、代田にある大正から昭和初期にかけて分譲された住宅地では、敷地境界の大谷石やゆとりある区画やみどり豊かな庭など、当時の風景が感じられる家並みが残されています。このことを踏まえながら、調和の取れた住宅地の街並みを育てていきます。



みどり豊かな住宅

### 農の風景との共存

桜上水地区は農地保全重点地区に指定され、農地の保全・育成が図られています。農地の周辺で建設行為等を行う際には、土やみどりなど田園風景に調和するデザインや素材を採用したり、敷地内緑化や敷地境界を生垣にするなどの工夫をし、農地と建築物などが共存する風景づくりを進めます。

## < にぎわい >

～にぎわい、みち、鉄道～

### 下北沢（広域生活・文化拠点）の風景づくり

下北沢は、商業・文化などの機能を備えた拠点として、その発展の歴史や道に沿って商店が広がる風景、演劇などが盛んな特性を活かし、若者が訪れる活気ある魅力的な場所として、安心して歩け、買い物が楽しめる、魅力的な空間づくりを進めます。

### 商店街から広がる風景づくり

駅周辺などに広がる商店街では、商店街の取り組みや地域資源を風景づくりに活かすとともに、街づくりと連携した取り組みを進めます。

### 大通りの心地よい空間づくり

甲州街道や環状7号線など大通り沿道の建設行為等は、街並みのスカイラインや形態・意匠・色彩に配慮するとともに、可能な限り緑化を図るなど、歩行者にも心地よい空間を創出します。

### 京王線連続立体交差事業と連携した風景づくり

京王線の連続立体交差事業が進む代田橋駅から桜上水駅間では、側道や駅前広場などの整備により、歩行者の回遊性向上を図るとともに、周辺の街づくりと連携した風景づくりを進めます。

### 小田急線上部利用による魅力的な風景づくり

小田急線の連続立体交差事業が進む東北沢駅から世田谷代田駅間では、小田急線の上部を利用し、防災性の向上やみどりの創出を図るため、通路や道路、駅前広場、緑地、小広場、防災施設などを整備するなど、周辺の街づくりと連携した風景づくりを進めます。

### 親しみのある世田谷線沿線の風景づくり

住宅地の中を色とりどりの車両が走る世田谷線は、沿線に植えられた季節毎の草木や花々と共に人々の目を楽しませてくれる、世田谷の特徴的な風景です。車窓や沿線からの眺めに配慮し、沿線の魅力を高める風景づくりを進めます。

## < 協働 >

### 地域風景資産や界わい宣言などを活かした風景づくり

地域風景資産や界わい宣言、市民緑地など、風景づくり活動が行われている資産やその周辺では、地域や区民などとともに、地域の魅力を高める風景づくりを育みます。



まち歩き

## 玉川地域



### < 自然 >

～地形、みどり・みず～

#### 地形・眺望への配慮

複数の河川が入り組んだ玉川地域は地形の起伏が豊かです。国分寺崖線からは、富士山を眺められる場所も多くあります。こうした地形を活かし、多くの人が豊かな地形からの眺望を共有できるよう工夫します。



崖線からの富士山

#### 国分寺崖線のみどりへの見通しの配慮

国分寺崖線のみどりは、多摩川方向からよく望むことができます。その眺めの途中にある建築物などは、みどりの連続性や川辺から崖線への視線を考慮し、植栽や形態、色彩を工夫します。

#### 国分寺崖線等のみどりのみずを活かした風景づくり

瀬田、上野毛、野毛、尾山台に続く国分寺崖線には、武蔵野固有の多様な植生や生態系及び湧水が残され、それらを活かした瀬田4丁目広場や上野毛自然公園があります。花火大会が開かれる多摩川沿いの公園など、みどりのみずのある空間を活かし、身近に自然の魅力を共有できる風景づくりを進めます。

#### 等々力溪谷の風景の保全

等々力溪谷は23区で唯一の溪谷であり、東京都指定の名勝です。溪谷の保全とともに、溪谷を活かした周辺地域の風景づくりを進めます。

#### まとまったみどりとの連続性の創出

駒沢オリンピック公園や馬事公苑、浄真寺や玉川神社などのまとまったみどりは、地域の風景を特徴づける大切な要素です。まとまったみどりを起点に、より多くの人々がみどりを感じられるよう、みどりの連続性に配慮した風景づくりを進めます。

#### 緑道や河川から広がる散歩道

呑川緑道などの緑道や、多摩川沿いをはじめ、丸子川、谷戸川、谷沢川などの河川沿いは地域住民などに憩いと潤いを提供する散歩道です。緑道や河川沿いで建設行為等を行う際には、特性を踏まえながら積極的にみどりを配することで、みどりのみずの連続性を深めます。また、緑道や河川周辺の風景資源と連携を図りながら、更に散歩に適した空間づくりを進めます。



水と緑が美しい丸子川

### 歴史的・文化的資産を活かす

浄真寺や古道（大山道）、玉川電気鉄道跡地、国分寺崖線に分布する遺跡などをはじめ、歴史的・文化的資産の周辺においては、資産に対して建築物の形態や配置、植栽により空間のつながりを持たせたり、街づくりに資産などを活かすなどの工夫を行います。

### 特徴的な住宅地の風景を伝える

国分寺崖線内や、新町住宅地、奥沢の海軍村及び玉川田園調布などの大正から昭和初期にかけてつくられた住宅地では、当時の風景が感じられる家並みが残されています。また、玉川全円耕地整理事業が実施された地域は、道幅にゆとりのある道路も多く、美しい並木道も数多くあります。このことを踏まえながら、調和の取れた住宅地の街並みを育てていきます。

### 農の風景との共存

瀬田地区や中町・深沢・等々力地区は農地保全重点地区に指定され、農地の保全・育成が図られています。農地の周辺で建設行為等を行う際には、土やみどりなど田園風景に調和するデザインや素材を採用したり、敷地内緑化や敷地境界を生垣にするなどの工夫をし、農地と建築物などが共存する風景づくりを進めます。

## < にぎわい >

~ にぎわい、みち、鉄道 ~

### 二子玉川（広域生活・文化拠点）の風景づくり

二子玉川は、多摩川や国分寺崖線といった地形やその発展の歴史を踏まえ、商業・業務・文化・交流・レクリエーションなどの機能を備えた拠点とするため、にぎわいと居住、自然環境の調和に配慮した潤いのある風景づくりを進めます。



二子玉川の風景

### 商店街から広がる風景づくり

サザエさん通りをはじめ、駅周辺などに広がる商店街では、商店街の取り組みや地域資源を風景づくりに活かすとともに、街づくりと連携した取り組みを進めます。

### 大通りの心地よい空間づくり

玉川通りや環状8号線など大通り沿道の建設行為等は、街並みのスカイラインや形態・意匠・色彩に配慮するとともに、可能な限り緑化を図るなど、歩行者にも心地よい空間を創出します。

### 地域の特性を活かした等々力大橋（仮称）の整備

多摩川に計画されている等々力大橋（仮称）の建設にあたっては、多摩川沿いの豊かなみどりとみずや多摩川側からみる国分寺崖線への眺望など地域の特性を活かした風景づくりを進めます。

### 特徴のある公共施設を活かした風景づくり

用賀プロムナードやけやき広場など、地域にある特徴的な公共施設を活かした風景づくりを進めます。

## < 協働 >

### 地域風景資産や界わい宣言を活かした風景づくり

地域風景資産や界わい宣言、市民緑地など、風景づくり活動が行われている資産やその周辺では、地域や区民などとともに、地域の魅力を高める風景づくりを育みます。



まち歩き

## 砧地域



### < 自然 >

～地形、みどり・みず～

#### 地形・眺望への配慮

野川、仙川、谷戸川の複数の河川が入り組んだ砧地域は地形の起伏が豊かです。国分寺崖線からは、富士山を眺められる場所も多くあります。こうした地形を活かし、多くの人が豊かな地形からの眺望を共有できるよう工夫します。



崖線からの富士山

#### 国分寺崖線のみどりへの見通しの配慮

国分寺崖線のみどりは、野川や仙川からよく望むことができます。その眺めの途中にある建築物などは、みどりの連続性や川辺から崖線への視線を考慮し、植栽や形態、色彩を工夫します。

#### 国分寺崖線等のみどりとみずを活かした風景づくり

成城、大蔵、岡本に続く国分寺崖線には、武蔵野固有の多様な植生や生態系及び湧水が残され、特に成城ではみつ池特別緑地保全地区や成城三丁目崖の林特別緑地保全地区が指定されているほか、複数の市民緑地が公開され、崖線と野川一帯を「世田谷・みどりのフィールドミュージアム（成城学園前駅周辺地区）」として、地域住民との協働により、身近な自然の豊かさを区民共有の財産として守り育み、学習の場として活かす取り組みが行われています。崖線内やその周辺で建設行為を行う際には、国分寺崖線やこれを保全・育成する取り組みに配慮し、崖線風景の阻害要因とならないようにします。

#### まとまったみどりとの連続性の創出

砧公園をはじめとするまとまったみどりは、地域の風景を特徴づける大切な要素です。まとまったみどりを起点に、より多くの人がみどりを感じられるよう、みどりの連続性に配慮した風景づくりを進めます。

#### 河川から広がる散歩道

仙川や野川沿いは地域住民などに憩いと潤いを提供する散歩道としても親しまれています。河川沿いで建設行為等を行う際には、特性を踏まえながら積極的にみどりを配するなど、みどりやみずの連続性を深めます。また、河川周辺の風景資源と連携を図りながら、更に散歩に適した空間づくりを進めます。



自然豊かな野川

### < 歴史・文化 >

～地域の歴史・文化、住宅地、農～

#### 歴史的・文化的資産を活かす

砧地域には喜多見を中心に歴史ある社寺や遺跡、古墳が多くあり、静嘉堂や成城の近代建築も見られます。また登戸道や筏道などの古道もあります。それらの歴史的・文化的資産の周囲においては、資産に対して建築物の配置や、植栽により空間のつながりを持たせたり、街づくりに資産を活かすなどの工夫を行います。

### 特徴的な住宅地の風景を伝える

大正末期、成城学園の立地により開発された成城の住宅地は、現在でもゆとりのある区画が継承され、近代住宅も一部残り、当時植えられたイチョウや桜の並木は地域の資産に成長しました。住民により策定された成城憲章を踏まえ、みどりとゆとりある区画を保全し、成城らしい街並みを伝え継ぐ風景づくりを進めます。



成城に残る近代住宅

### 大規模団地の建て替えに伴う街づくりとの連携

大規模団地の建替えにあたっては、既存のみどりや周辺環境を活かしながら、道路や公園などの都市基盤の整備を含め、周辺の住環境と調和した風景づくりを進めます。特に大蔵団地については、隣接する国分寺崖線の風景や周辺環境との調和に努めます。

### 農の風景との共存

喜多見・宇奈根地区は農地保全重点地区に指定され、農地の保全・育成が図られています。特に喜多見四・五丁目は東京都の「農の風景育成地区」に指定されており、かつての農村風景を再現した次大夫堀公園もあります。農地の周辺で建設行為等を行う際には、土やみどりなど田園風景に調和するデザインや素材を採用したり、敷地内緑化や敷地境界を生垣にするなどの工夫をし、農地と建築物などが共存する風景づくりを進めます。

## < にぎわい >

～にぎわい、みち、鉄道～

### 商店街から広がる風景づくり

ウルトラマン商店街をはじめ、駅周辺など地域に点在する商店街では、商店街の取り組みや地域資源を風景づくりに活かすとともに、街づくりと連携した取り組みを進めます。

### 大通りの心地よい空間づくり

世田谷通りや環状8号線など大通り沿道の建設行為等は、街並みのスカイラインや形態・意匠・色彩に配慮するとともに、可能な限り緑化を図るなど、歩行者にも心地よい空間を創出します。

### 東名ジャンクション（仮称）周辺のみどりとみずが調和した風景づくり

東名ジャンクション（仮称）周辺では、街づくりと連携しながら、みどりやみずと調和した風景づくりを進めます。ジャンクション整備に伴い創出される環境施設帯や道路の蓋掛け上部など上部空間などの利用については、周辺の住環境との調和を図るとともに地域資源としての有効活用に向けた整備を進めます。

### 小田急線駅周辺の街づくりと連携した風景づくり

高架化された小田急線千歳船橋駅から喜多見駅間は、駅周辺商店街の活性化とあわせて、駅利用者が安心して駅を利用できるよう、周辺住宅地のとの調和を図りながら、街づくりと連携した風景づくりを進めます。

## < 協働 >

### 地域風景資産や界わい宣言を活かした風景づくり

地域風景資産や界わい宣言、市民緑地など、風景づくり活動が行われている資産やその周辺では、地域や区民などとともに、地域の魅力を高める風景づくりを育みます。



落ち葉はき

## 烏山地域



### < 自然 >

～地形、みどり・みず～

#### 地形への配慮

仙川をはじめ、かつての河川の支流沿いには、両岸に斜面地が連なっています。地形や斜面地のみどりを活かした風景づくりを進めます。



仙川

#### まとまったみどりとの連続性の創出

烏山寺町をはじめとする寺院や法人等の所有する大きな敷地のみどり、蘆花恒春園や祖師谷公園などにはまとまったみどりが見られます。これらのまとまったみどりは、地域の風景を特徴づける大切な要素です。まとまったみどりを起点に、より多くの人々がみどりを感じられるよう、みどりの連続性に配慮した風景づくりを進めます。

#### 水資源を活かした風景づくり

仙川には地域風景資産である祖師谷中橋をはじめデザインが工夫された橋が多く架けられ、みどりとみずが感じられる遊歩道が整備されています。仙川以東では、地域の北西から南東方向に向けて、烏山川や北沢川につながる支流や水路敷が随所に見られます。また、烏山寺町周辺は、“宙水”と呼ばれる武蔵野台地において貴重な浅い地下水の層があります。高源院には湧水によりできた弁天池があり、区の特別保護区に指定されています。これらのみずに関わる資源を活かしながら、散歩も楽しめるような風景づくりを進めます。

### < 歴史・文化 >

～地域の歴史・文化、住宅地、農～

#### 烏山寺町の保全・継承

関東大震災で都心から移転してきた寺が集積している烏山寺町は、およそ90年を経た今、寺院のみどりも色濃く、区内でも特質的な環境を創出しており、地域住民や寺院による自主協定のもと、宙水や地域環境の保全を目的とした取り組みも行われています。歴史・文化のみならず自然環境としても貴重な烏山寺町特有の特性を踏まえ、訪れる人にとっても魅力的な風景を育みます。



烏山寺町

#### 歴史的・文化的資産を活かす

烏山地域には、烏山寺町をはじめとする社寺、瀧坂道や甲州街道といった古道のほか、蘆花恒春園内には小説家・徳富蘆花の書院や母屋も残され、小説には当時の風景を垣間見ることができます。また、世田谷文学館は、現代建築でありながら、久保家屋敷跡の庭園を活かしたつくりになっています。このような歴史的・文化的資産の周辺においては、資産に対して建築物の形態や配置、植栽により空間のつながりを持たせたり、街づくりに資産を活かすなどの工夫を行います。



### 特徴的な住宅地の風景を伝える

京王線開通後、大正末期より、上北沢駅前には桜並木を中心とした街区割りが個性的な住宅地が造成されました。およそ90年が経過し、豊かに育った桜並木は住宅地のシンボルであり、地域住民によって保全・育成が図られています。こうした経過を踏まえながら、調和の取れた住宅地の街並みを育てていきます。

### 大規模団地の建て替えに伴う街づくりとの連携

烏山地域には八幡山団地や北烏山住宅をはじめ、大規模な住宅団地が点在しており、老朽化の進行とともに建替えなどによる居住環境の改善が必要とされています。住宅団地の建替えにあわせ、街づくりと連携をはかりながら、みどりのネットワークの創出など、風景づくりを進めます。

### 農の風景との共存

北烏山・給田地区や上祖師谷地区では、農地保全重点地区に指定され、農地の保全・育成が図られているほか、区内でも比較的多くの農地や屋敷林が残っている地域です。農地の周辺で建設行為等を行う際には、土やみどりなど田園風景に調和するデザインや素材を採用したり、敷地内緑化や敷地境界を生垣にするなどの工夫をし、農地と建築物などが共存する風景づくりを進めます。



北烏山九丁目屋敷林

### < にぎわい >

～ にぎわい、みち、鉄道～

#### 商店街から広がる風景づくり

駅周辺などに広がる商店街では、商店街の取り組みや地域資源を風景づくりに活かすとともに、街づくりと連携した取り組みを進めます。

#### 大通りの心地よい空間づくり

甲州街道や環状8号線など大通り沿道の建設行為等は、街並みのスカイラインや形態・意匠・色彩に配慮するとともに、可能な限り緑化を図るなど、歩行者にも心地よい空間を創出します。

#### 京王線連続立体交差事業と連携した風景づくり

京王線の連続立体交差事業が進む区間では、側道や駅前広場などの整備により、歩行者の回遊性向上を図るとともに、周辺の街づくりと連携した風景づくりを進めます。

### < 協働 >

#### 地域風景資産や界わい宣言などを活かした風景づくり

地域風景資産や界わい宣言、市民緑地など、風景づくり活動が行われている資産やその周辺では、地域や区民などとともに、地域の魅力を高める風景づくりを育みます。



観察会